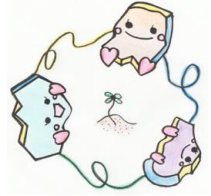


東北復興 PSW にゆうす

被災地における障害福祉事業所の販路拡大支援事業がはじまりました！

平成27年9月より（公社）日本精神保健福祉士協会のHPにて被災地の事業所を応援する標記事業が始まりました。今回は同事業に参加される宮城県の「きらら女川」を訪問し、所長の松原千晶さんよりお話を伺ってきましたので、その様子を中心にお届けします。



【きらら女川のこれまでの歩みを教えてください】

きらら女川は町内の精神障がいを抱えた方の働く場がないとの理由で震災が起こる前の年の2010年12月にオープンした就労継続B型の事業所です。開所により、これまで居場所や行き場がなく、自信を持てずに道の端を歩いていた利用者が、所属する場を持ち、働ける、働いてもいいんだと少しずつ自信をつけ、自ら挨拶ができるようになるなどの兆しが見えて来た矢先に東日本大震災が発生し、津波により事業所を含む町の多くは全壊、そして沢山の命がうばわれ、利用者2名も犠牲となりました。再開を模索するものの、町の多くが被災した状況で土地や場所がなかなか見つからず、平成25年7月ようやく新たなスタートを切ることが出来ました。この間、月1回利用者のみならず顔を合わせ、話をする場を設けていたのですが、みな甚大な被害状況を理解していたので、誰一人「再開はまだか」と言ってくる方はいませんでした。中には5年くらい再開は無理かなと考え、他の地域へ移り住む方もいました。しかしながら事業所再開の目途が立ち、報告をした途端、「再開を待っていた」との声が次々と聞かれ、みんなが待ち望んでいたことを改めて実感しました。

【震災前後で変わったことはありますか】

震災によって離れてしまった方もいれば、震災後に初めて出会った方もいますが、この空白の2年間で、「通うところがあれば自分たちにも出来ることがある」と実感した方が多いように思います。その結果、ものすごく仕事や仲間を大事にする姿勢が強まったと感じます。働く意味や自分が社会の中の一員だという感覚を作業を通して実感できているようで、大変な時期を過ごしたからこそ、そのエネルギーが現在の原動力になっていると



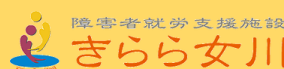
➡ 思います。忙しいときでも「もっと仕事はないんですか」と聞いてくるんです。事業再開までの2年間、私は事業をつなぐため、縁あって鳥取県へ移り、できることを行いながら、月1回女川町に戻り利用者と話をしていたのですが、利用者からは「毎月毎月来なくてもいいよ」と言われたこともありました。私のことを思いやってくれていたんです。立場的に支援する側の人間が支援されていたのだと思います。

【現在取り組んでいる活動について教えてください】

これは震災前からのことですが、みなこれまで我慢を強いられる生活が長く、その生活に慣れてしまっていたのではと感じることがあります。震災が起きた時も、避難所でも、そして事業所再開までの間においても、みな本当に何も言わなかったんです。自分の思いを表現する場がこれまでなかったんだと思います。きらら女川ではそうじゃないんだ、思いを口にしたいんだ、ということを考えていける場にしていきたいとの思いもあり、3障がいすべてを受け入れながら活動しています。

【おすすめの商品を教えてください】

勿論すべてお勧めですが、一押しは三陸海岸でとれたワカメの製品です。町の基幹産業にもなっており、力を入れています。特殊な製法で本当に良いものを作っているのでは是非食べていただきたいです。



名物のさんまパンとおからかりんとうもおすすめてです

【全国の仲間へ一言】

まずは感謝の一言しかありません。本当に多くの支援があり再開することが出来ました。再開自体もそうですが、色々な取組で被災地は少しずつ元気になってきています。個人差はありますが心の修理も少しずつ進んでいるのではと感じます。もう少し応援をしてもらいながら、いつかは「もう心配ないよ」と言えるように、「もう心配ないね」と言ってもらえるように頑張っていきたいと思います。そして自分たちが元気になったら今度は皆さんの役に立ちたいと考えています。私たちにできることは頑張って美味しいものを作り、皆さんへ届けることと、日々頑張っています。是非一度商品を手にとりいただけたらと思います。

【今後の抱負をお願いします】

頑張れないときに頑張れと言われ、辛いときもありました。「助けて」と言ってもいいとわかったときに救われました。今回の震災体験では「つながり」や「当たり前前の生活」などこれまで気づけなかったことに気づくことが出来ました。今でも当たり前ではありません。日頃笑顔でいても心の中ではそうじゃない部分を抱えている方も多くいます。そんな仲間達とこれから先も歩みを続けたいと思います。

事業所概要（きらら女川 HP より一部抜粋）

- ・対象者： 身体障がい・知的障害・精神障害・難病
 - ・営業時間： 9時から15時（作業により変更あり）
 - ・対象地域： 女川町・石巻市
 - ・利用定員： 20名 ・送迎： あり（無料）
- 住所：宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜字鷲神 144-7
TEL：0225-98-8062 FAX：0225-98-8074

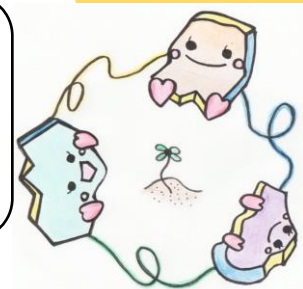


訪問時も利用者の皆さんは熱心に仕事に取り組んでいました。松原所長さんの暖かな笑顔と、そこに秘められた想いを感じる事が出来た訪問でした。販路拡大支援事業についての説明は下記をご覧ください。

要チェック！！★【復興支縁ツアーのお知らせ】★

「第4回復興支縁ツアーin ふくしま」が2016(平成28)年3月に開催される予定です。詳細が決まり次第12月中にはWebにて順次内容を掲載いたします。募集申込開始は1月15日の発送物に同封の周知・募集のチラシ到着後となります。乞うご期待ください（^o^）／

福島でお待ちしています！
ぜひお越しください。



マスコット
キャラクター
「えんが〜る」

被災地における障害福祉事業所の販路拡大支援について

東日本大震災より4年半が経過しました。東北地方を中心として、復興状況はまだ道半ばな状況と言えます。物販をしている障害福祉サービス事業所の販路拡大も、この状況に比例して困難を抱えているところもあるかと思えます。つきましては、本協会WEBサイトにおいて、障害福祉サービス事業所の活用をピーアールするとともに、希望する事業所のWEBサイトのリンクを貼る販路拡大支援のご提案をさせていただきます。本協会の活動を通じて、皆さまの事業所のさらなる復興へ寄与できれば幸いです。詳しくは日本精神保健福祉士協会ホームページ（下記URL）をご覧ください。

★皆さんからのメッセージを募集します★ 本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ホームページにてご紹介させていただきます（原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません）。お届け先は東日本大震災復興支援委員会へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。

E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSWにゆうずについて」とご記入をお願いします。

第19号 2015年11月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

URL: <http://www.japsw.or.jp/> ★東日本大震災復興支援情報サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>